

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070701760		
法人名	社会福祉法人 倫尚会		
事業所名	グループホーム 倫尚園 Bユニット		
所在地	福岡県北九州市八幡西区馬場山東3丁目11番1号		
自己評価作成日	令和2年1月7日	評価結果確定日	令和2年2月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズン
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和2年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム倫尚園は、福智山を望む自然豊かな環境の中に建つ特別養護老人ホーム、養護老人ホームとの高齢者複合施設の1階に位置しています。2階のホールでは、3施設合同の餅つきや運動会、敬老会等があり、地域の方々との交流も行っています。その他、出張売店や大谷稲荷神社の行事の場やグループホームの夏祭り等の大きなイベントの会場として活用しています。グループホーム内では食堂や座敷、談話コーナー等一人ひとりを尊重し、くつろいでいただける空間づくりの他に、広々とした庭園で四季折々の山々を眺めながら車椅子でも気軽に散歩したり、気候の良い時期にはおやつを提供など野外での活動にも工夫を凝らし、利用者の「暮らしの場」として潤いと豊かさ、プライバシーに配慮した家庭的な生活環境を提供しています。また、家族との関わりを大切に、食事会等家族参加の行事を定期的に行っています。職員は「認知症」に対する理解を深める為、職員間での勉強会、市の認知症講習に参加し、知識や技術の向上を目指し、連携を保ちながら利用者が安心安全な暮らしができるよう努めています。令和2年1月より医療連携体制を整備し医療機関との連携を強化し、利用者の健康管理の充実を図るよう努めています。校区の中学生の職場体験や職業説明会、高校生の介護実習の受け入れも積極的に行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホーム倫尚園 Bユニット**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は管理者・職員共に共有し、新人職員に対しては入社後に理念についての説明・指導を行っており、また理念を見やすい場所に掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として自治区会に入っており、子供食堂の導入や町内の清掃や行事に参加したり、施設の行事に地域の方々を招待して交流を図っている。また、校区の中学生の職場体験、高校生の介護実習の受け入れを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域、施設の行事時には認知症についての理解や支援の方法等を説明したり、行政による認知症啓発のパンフレット・広報誌等を配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では活動報告や入居者の動き等について報告し、参加者の方々より意見を出して頂き、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの職員の参加もあり、地域や在宅の状況等積極的に意見交換を行っている。また、北九州のグループホーム連絡会に参加しており、今後も参加回数を増やしていきたい。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	福岡県の「身体拘束ゼロ宣言」に登録しており、施設内研修や身体拘束等適正化委員会を3ヵ月毎に開催している。また、外部の研修にも参加し、身体拘束についての具体的なケアを理解し取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については施設内研修や推進プロジェクト、外部での研修に参加し、学ぶ機会を作り、職員間で情報を共有し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での研修、推進プロジェクト、外部の研修等に参加し、家族より相談を受けた時には対応できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書面に沿って説明し、不明なことは理解、納得されるまで十分に説明を行っており、納得をいただいた上での契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には、意見・要望をその都度聞き、改善や運営に取り組んでいる。オンブズパーソンの来園が2か月に1度あり第三者の意見を聞く機会を設け、運営に反映させている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度初めの職員全体会議では事業計画を報告し、職員の意見等を聞く場を設けている。また職員の積極的な意見交換が行われ運営の反映や改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、やりがいや意欲向上の為にフレッシュ休暇や福利厚生の実施に取り組み、働きやすい職場環境に取り組んでいる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用に関しては、法人事務局で行っている。職員一人ひとりの能力や要望を考慮し、施設内での異動やユニット替え、柔軟な勤務形態での対応をし希望に応じて定年後雇用も行っている。個々の能力が発揮できる環境づくりに努めている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内研修や外部での研修およびプロジェクトにて学ぶ機会を作り、ミーティングでも具体的に話し合いを行い、取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年間研修計画を立て実施を行い、外部の研修も参加できるようにしている。また、新人研修をその都度個別に行い技術、知識の向上を図っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	福祉関係の職員と交流をし、意見交換等を行いサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時には、ホームに来ていただくか職員が訪問するようにし、不安や求めていることを聴く機会をつくっている。また、入居後はマンツーマン対応等で集中的に関わりを持つようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込時に家族の置かれている状況、利用内容、不安感をしっかり聴き取りして信頼が深まるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際、当ホームに空きがなく急を要する場合は居宅の事業所や他グループホームを勧めたりしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活していく中でお互いに学んで支え合う関係づくりに努めている。また、クッキング等を通じて先輩である入居者様からも多くの知識を得り、共に暮らす関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族がともに支え合える環境の場を支援している。家族の協力で病院受診、行事の参加、自宅、面会への外出や外泊、旅行など家族の絆を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時は、本人の思いを汲み取り、馴染みの方々への交流が途切れないように電話や面会時、福祉センターの行事や同級生の家の訪問等の支援に努めている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流が円滑になるようデイルームでの座る位置や人間関係等を配慮し、うまく交流が行えるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に住みかえたり、長期入院で退居になった場合でも職員が面会や見舞に行く等相談できることを家族に伝え、関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の希望や意見に沿って生活歴、フェイスシートを作成し、思いを把握し利用者の意向に沿えるよう努め、その一環として「夢を叶えませす」に取り組んでいる。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者には本人の思いを汲み取り、生活歴、サービス利用者の把握により馴染みの生活用品等も持ち込んで頂き安心して生活ができるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の健康状態、生活リズム、残された機能を把握し勉強会等で話し合いをし個々のケアに取り組んでいる。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を第一に主治医や介護者の意見も反映させながら利用者本位の現状に合った計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン計画チェック表、個別サービス管理表、生活支援記録、介護活動チェック、健康管理表等の記録を職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活用している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設としての特色を活かし集団検診や出張売店、四季に応じた外出支援や行事に取り組んでいる。また、訪問看護との連携体制を整備している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	複合施設としての利点を活かし、校区内の小学校、幼稚園との交流、地域住民のボランティア、地区春秋祭りの氏神様へのお参りや市民センターでの福祉祭りなどに参加し、地域の資源で暮らしを豊かにできるように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を確認し、かかりつけ医との個別受診、経過記録を作成している。在宅医療を活用し内科、皮膚科、歯科、眼科の往診をしてもらっている。往診前日にはファックスにて情報提供し、当日にはアドバイスを受け支援している。		
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	複合施設内に看護師が常勤しており、緊急時には相談・対応も依頼できるように体制が整っている。今年より、医療に関して連絡、相談できるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は定期的に面会に行き家族または医療関係者との情報交換を密に行い要望があればカンファレンスにも参加し、状態の把握に努め、早期に退院できるように連携を取っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化ケア、看取り介護指針を作成し、家族一人一人に説明、同意を得て、訪問看護と連携し医療と協力体制を整備している。今後は重度化、看取りに向け取り組んでいく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度、消防署より救命についての実践講義を受け、事業内でも定期的に訓練を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	複合施設として定期的に昼夜を想定した避難訓練を実施している。また防災計画のマニュアルに沿って風水害、地震、火災等の避難訓練を入居者家族、地域の方々の協力を得て行うようにしている。運営推進会議では、地域の方々に協力を得られるように働きかけを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内での研修、推進プロジェクト、勉強会等において意識付けを行っている。プライバシーの確保や言葉かけに配慮している。また、個人情報書を作成し理解を得ている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者と接しながら本人の思いや希望を汲み取り、自己決定ができる様に働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	複合施設全体で行われている健康体操、2週間に一度の音楽クラブやストレッチ体操など決まった活動はあるが、参加は自由にされている。その他には一人ひとりのペースに合わせて希望に沿った支援を心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は本人に選んでいただき、意思決定ができない方はその方に似合ったものを選び支援している。化粧、髭剃り等出来ることはしている。また、出張理美容に来ていただき、希望時にはカットやカラー、パーマ、顔そり等されている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳等職員と一緒にできることを支援によって手伝われている。誕生日会、寿司バイキング、お好み喫茶やクリスマスや元旦等の食を楽しむイベントを多く取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	複合施設として調理は厨房で栄養士により栄養計算し献立されている。キザミ食や糖尿病食、減塩食等、一人ひとりに応じた食事の提供を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	消毒液歯ブラシにより毎食後に口腔ケアを行い、本人の能力に応じ、一部介助または全介助を行っている。義歯は夕食後に外し、義歯洗浄剤にて洗浄している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて排尿パターンを把握し、一人ひとりに応じたのトイレ行きの習慣が自立できるよう支援を行っている。オムツや紙パンツを出来るだけ使わない様ミーティング等で話し合い布パンツや尿取りパッドの使用にて訴え時や時間でのトイレ誘導を行っている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤だけに頼らず、適度な運動、食物繊維、水分を細めに提供し腹部マッサージをして便秘予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は24時間入れる温度に設定しており、朝一番に希望される方、自発的な希望はないが声かけを行い、気の合う人同士入浴される方、1人を好み1人で入浴される方等、一人ひとりに応じた入浴を行っている。入浴を好まない方にもできる限り工夫している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に午睡の時間を設けており、希望者はおやつ前まで休んで頂くようにしている。夜間は安眠できるように温度調節、眠れない方に対しては話をする等、安心して眠ることができる様に支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容を職員は把握できる様にしている。副作用のある食べ物は代替にて提供している。服薬後の異常等あれば主治医に連絡し、指示を仰いでいる。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの生活歴や趣味、嗜好等から希望や楽しみを見出し、編み物、貼り絵、字の練習、ぬり絵等をされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化に伴い外出支援が困難になってきているが、福祉車両を使用し、車椅子の方でも出来るだけ外出できるように支援している。初詣や花見、ドライブ等季節を感じられる外出や日常的な散歩の中で外気に当たり季節感を感じて頂けるように心がけている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方には自分で所持していたき、ショッピングや毎月の出張売店等で支払いをしていただいている。他の方々は、支払い時にその場で手渡し払っていただいている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時には公衆電話まで誘導し会話ができる様に支援している。又、携帯電話の管理ができる方には所持していただき、本人の居室で通話してもらっている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただくため四季の草花や壁面を飾ったりしている。座敷には堀ごたつがあり、利用者がゆっくりとくつろげる雰囲気づくりをしている。玄関ではメダカやカメを飼っておりペットの世話をする日常を感じられるよう工夫している。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、談話コーナー、座敷等で利用者同士で思い思い語り合ったり、座敷に設置しているマッサージ機に身をゆだねてゆっくりと過ごせるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使いなれた家具や仏壇、思いのある物を持ち込んで頂き、家庭での生活をそのまま過ごせるような居心地のよい環境づくりを心がけている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる限り残存機能を生かした生活をしていただいている。施設内の手すり、起立する為の安全バー、居室トイレの表札、トイレ等も大きな字で表示し混乱のない様に工夫をしている。		